

BI-3-iii-06	応用分子生物学 A	第 3 学年	後期 選択必修	0.5 単位
担当者	輪千 浩史			
一般目標 (GIO)	分子生物学を薬学領域で応用できるようになるために、遺伝子操作に関する基本的知識、技能、態度を修得する。			
到達目標 (SBOs)	1. 細胞 (組織) における特定の DNA および RNA を検出する方法を説明できる。 2. 外来遺伝子を細胞中で発現させる方法を概説できる。			
受講心得・準備学習等	遺伝子操作に必要な基本情報について理解を深めることを心がける。			
事後学習・復習等	教科書と授業ノートを中心に理解を深めることを心がける。			
オフィスアワー	平日 (月～金) 午後 5 時～6 時			

授業の形式と各回の内容

授業の形式		講義・演習
回	項目	内容
1	遺伝子操作の技術	遺伝子変異の解析
2	遺伝子操作の技術	mRNA の定量的発現解析
3	遺伝子操作の技術	mRNA の発現差異の解析
4	遺伝機能の解析技術	遺伝子導入とタンパク質発現亢進
5	遺伝機能の解析技術	遺伝子導入とタンパク質発現抑制
6	遺伝機能の解析技術	遺伝子導入と治療への応用

成績評価の方法	小テスト (50%)、演習 (50%) の結果を基準に評価する。
成績評価の基準	小テスト (50%)、演習 (50%) の合計点が原則 60%以上を合格とする。
教科書	金田典雄、伊藤進 編集「薬学のための分子生物学」(廣川書店)
参考書など	講義中に紹介する。